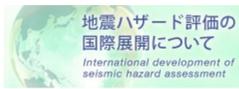


地震ハザード評価研究の国際展開

自然災害のハザード・リスクに関する研究開発プロジェクト



より詳細な情報については、J-SHISウェブサイト内「地震ハザード評価の国際展開について」をご覧ください。
<https://www.j-shis.bosai.go.jp/intl>

Point

- GEM (Global Earthquake Model)加盟による国際展開
- アジア・環太平洋地域での地域展開
- 国際ワークショップを通じた継続的な研究交流

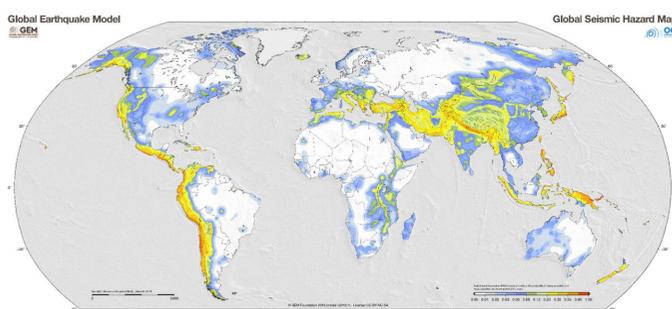
概要

■ GEM加盟による国際展開

国際NPO法人GEM (Global Earthquake Model)は地震ハザード・リスク評価に係る研究開発およびプラットフォーム・データ・ツールの整備を通じて地震ハザード評価の標準化を進めている組織です。防災科研は、日本で培われてきた知見を共有するため2012年に加盟し、以降運営委員会のメンバーとして参加しています。今年度は日本の地震ハザード評価における認識論的不確定性（知識や経験の不足に起因する“不確かさ”）の取り込みに関する共同研究を進めています。

■ アジア・環太平洋地域での地域展開

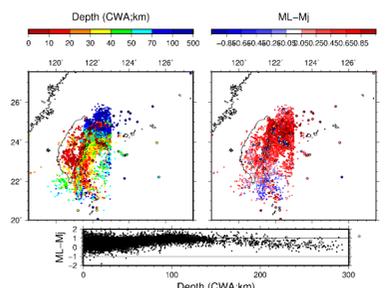
GEMの活動における地域展開の一環として、日本は周辺地域・国との連携・研究交流による研究の活性化が期待されています。防災科研はこれまで、中国、韓国、ニュージーランドや台湾をはじめとするアジア・環太平洋の地域・国との研究交流を進めてきました。対面でのワークショップを定期的に行うことで継続的な国際研究交流を促進し、観測記録をはじめとしたデータやハザード・リスク評価に係るモデルの共有・相互理解を進めています。



Global Seismic Hazard Map (GEM)



台湾TEMとの研究交流(2024年1月；左)、日台の地震カタログの比較(右)



■ 国際ワークショップを通じた継続的な研究交流（今年度は11月に石川県にて開催予定）

アジア・環太平洋地域の国際研究交流の一環として、対面でのワークショップを開催し継続的な研究交流を進めてきました。

2014年からは毎年、台湾・ニュージーランド・日本の3地域のワークショップを持ち回りで開催しています。3地域はいずれも地震多発国であり、自然環境のみならず社会の自然災害に対する関心度についても多くの共通点があります。国・地域の地震ハザード評価研究をリードする研究機関等が集まり、進捗や課題を共有するとともに活発な議論を行っています。

今年度は防災科研主催で11月に石川県にて国際ワークショップを開催し、以下をはじめとする地震ハザード評価に関するトピックについて研究発表と議論、巡検を行う予定です。

- ・地震ハザード評価研究に関する科学
- ・国の地震ハザード評価モデルのガバナンス
- ・地震ハザード・リスク評価の実務等における適用
- ・2024年能登半島地震によるインパクトおよび将来の地震によるリスク



昨年度ニュージーランドでの国際ワークショップの様子(2023年11月)

